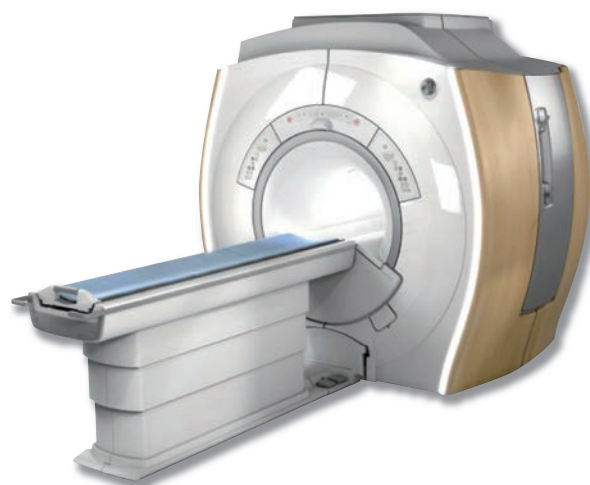


# 脳ドックのご案内

脳ドックでは、主に脳血管の破裂リスクとなる「脳動脈瘤」、血のかたまりで血管がつまる「脳梗塞」、そして「脳腫瘍」や「脳萎縮」などの有無を調べることができます。また、最近では診断装置の発達によって、以前ではわからなかった“ほとんど自覚症状を伴わない”「無症候性脳梗塞(隠れ脳梗塞)」も発見できるようになりました。脳の中にこうした異常があることがわかれば、大きな脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など、重篤な脳疾患を未然に防ぐことが可能です。

## ■ 料金・検査項目

シンプルコース	21,500円
検査項目	MRI、MRA
デラックスコース	37,000円
検査項目	MRI、MRA・頸動脈超音波検査、 動脈硬化測定検査（ABI・PWV） 脳梗塞リスクマーカー検査（血液検査：アクトレイン、 インターロイキン6(A6C)） 炎症反応検査（血液検査：CRP定性）



## ■ 各種検査の対象疾患

	脳出血	脳梗塞	くも膜下出血	脳腫瘍	脳動静脈瘤	動脈硬化
頭部MRI	○	○	○	○	—	—
頭部・頸部MRA	—	—	—	—	○	—
頸動脈エコー	—	○	—	—	—	○
リスクマーカー検査	—	○	—	—	—	○

## ■ 脳ドック受診の目安

40歳を過ぎると脳卒中の危険因子である、高血圧や高血糖、脂質異常（中性脂肪や悪玉コレステロールの数値が高い）に該当する人の割合が高くなってきますので、40歳を一つの目安で検査を受けられることをおすすめします。

## ■ 受診頻度

異常がない場合でも、2～3年に1回の定期的な検査をおすすめします。初回に異常が見られなくても、次回の検査時に異常が見られるケースもあります。病気も年齢や病状により変化しますので継続した検査が必要です。

既に高血圧、糖尿病、脂質異常症と診断されている人、動脈硬化を指摘されている人、喫煙年数が長い人、アルコールの摂取量が多い人、あるいは家族や近親者に脳卒中になった人がいる場合は、ハイリスク群となりますので、検査を受けられることをおすすめします。

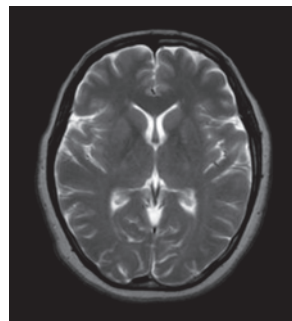
## ■ MRI (磁気共鳴断層撮影)

MRI 検査では、頭蓋骨の影響を受けずに脳内を診断することができ、切開せずとも全方位的に脳腫瘍、脳梗塞などの病変の場所、形や広がりを見ることができます。

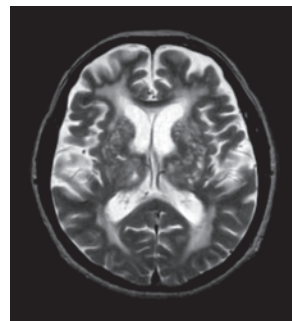
検査時間が30分程度と多少長くかかるうえに、工事音のような騒音で気分が落ち着かない、気持ちが悪くなるといったことなどがあります。

X線を用いないので被ばくの心配はありませんが、磁気を用いるため、心臓ペースメーカーや、脳動脈クリップなどが体内にある人、アクセサリーなどの金属を身につけたままでは検査できません。

おもに脳腫瘍、脳梗塞などの発見に役立ちます。



▲正常な状態

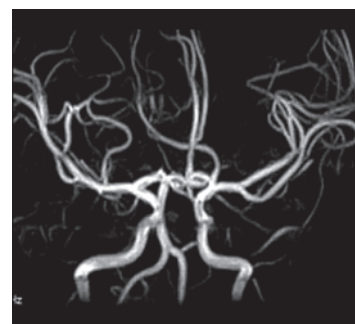


▲脳梗塞が多発している状態

## ■ MRA (脳血管撮影)

MRI と同じ機器を用いるMRAは、血管のみを立体的に抽出した検査で、血管のようすがわかる立体画像を作ることが可能です。血管のみを抽出することで、血管の狭窄や梗塞などによる血流異常、くも膜下出血、脳動脈瘤の有無などが一層わかりやすくなります。

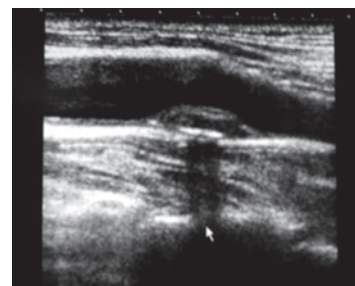
MRI 同様、X線を用いないので被ばくの心配はありませんが、磁気を用いるため、心臓ペースメーカーや、脳動脈クリップなどが体内にある人、またアクセサリーなどの金属を身につけたままでは検査できません。おもに、くも膜下出血、脳動脈瘤など脳内血管障害の発見に用いられます。



## ■ 頸動脈超音波

頸部に超音波をあてて、頸動脈を観察し、血管壁の厚み、血流の速さ、狭窄の有無などから血液の流れや動脈硬化の程度などをみる検査です。頸部には、脳や顔の組織に血液を送る動脈が複数通っており、頸動脈の状態を調べることでそれぞれの動脈の状態を知る手がかりとなります。

ちなみに、健康な血管は柔軟性があり、血流は比較的緩やかです。血流が早いほど血管壁が厚くて硬い“動脈硬化が進んだ状態”と診断されます。首にある左右の頸動脈に超音波をあてて画像を撮影します。頸動脈は比較的太い血管で、脳に近く動脈硬化が起こりやすい場所のひとつです。体の表面の近くにあって撮影しやすい頸動脈の血管壁の厚さや動脈硬化の変化などを調べることで、全身の動脈硬化の進み具合を推測することができます。



▲頸動脈内のプラーク

## ■ 脳梗塞リスクマーカー検査 (血液検査)

自覚症状のない小さな脳梗塞を「かくれ脳梗塞」・「無症候性脳梗塞」などといいます。「かくれ脳梗塞」の方は脳卒中や認知症などになりやすいといわれています。脳の細胞が傷つくと、アクロレイン・インターロイキン6などの血液中の濃度が高くなることが判明しています。脳梗塞リスクマーカー検査 (A6C) はこれらの物質の血中濃度を測定し、脳梗塞のリスクを総合的に判定します。

## ■ 動脈硬化測定検査 (ABI・PWV)

ABI 検査とPWV 検査は、手と足の血圧の比較や脈波の伝わり方を調べることで、血管の硬さ、詰まり具合を測定し、動脈硬化 (血管の老化など) の程度や早期血管障害を検出することができます。結果は数値だけでなく、血管年齢やわかりやすい図によって動脈硬化の進行度などがわかります。

ご予約  
お問い合わせ

TEL. 0296-54-5100

FAX. 0296-54-5108  
E-mail : [checkup@sakuragawa-mc.jp](mailto:checkup@sakuragawa-mc.jp)

受診日 / 月曜日～土曜日  
(日・祝日は休診)

受付時間 / 月曜日～土曜日  
8:30～17:00

◆全国健康保険協会 (協会けんぽ)、健康保険組合、労働安全衛生法 (衛生規制) に基づく健診及び特定健診も行っています。

 さくらがわ地域医療センター